

後志利別川水系河川整備基本方針について

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針
 - (1) 流域及び河川の概要
 - (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針
 - ア 災害の発生の防止又は軽減
 - イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持
 - ウ 河川環境の整備と保全
2. 河川の整備の基本となるべき事項
 - (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
 - (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項
 - (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
 - (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

流域の概要

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 (1) 流域及び河川の概要

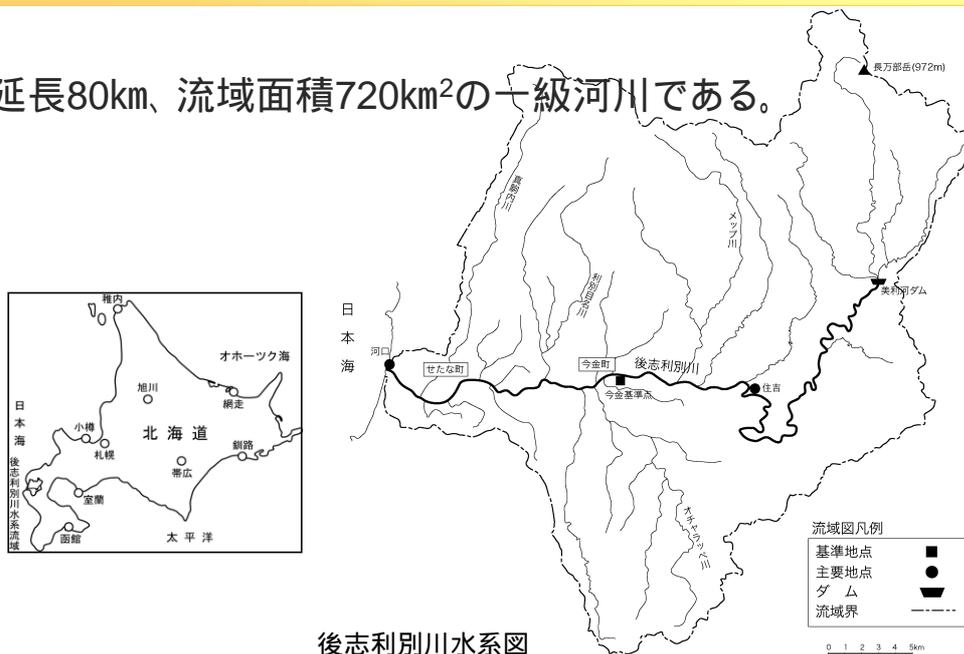
基本方針
P.1

(概要)

- ・幹川流路延長80km、流域面積720km²の一級河川である。
- ・流域の土地利用は、山林等約81%、農地約14%、宅地等その他約5%となっている。
- ・肥沃な土地と 温暖な気候により、道南地域を代表する穀倉地帯である。
- ・流域の地質は、緑色凝灰岩が含まれている新第三紀層が重なっている。
- ・流域を含むかなりの地域は火山性土で覆われている。
- ・流域の年間降水量は今金で約1,350mmである。

(概要)

・幹川流路延長80km、流域面積720km²の一級河川である。



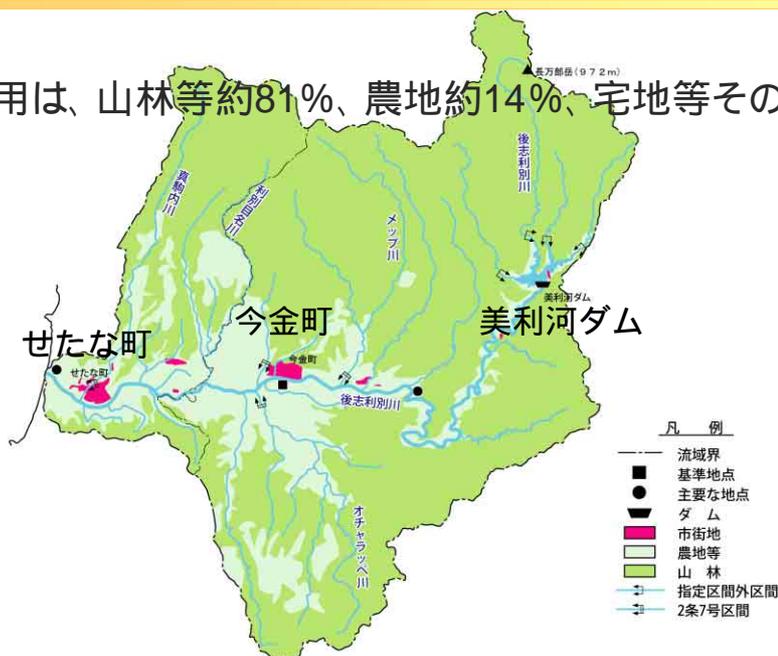
後志利別川水系図

説明図

1-1

(概要)

・流域の土地利用は、山林等約81%、農地約14%、宅地等その他約5%となっている。



説明図

1-2

(概要)

・肥沃な土地と温暖な気候により、道南地域を代表する穀倉地帯である。

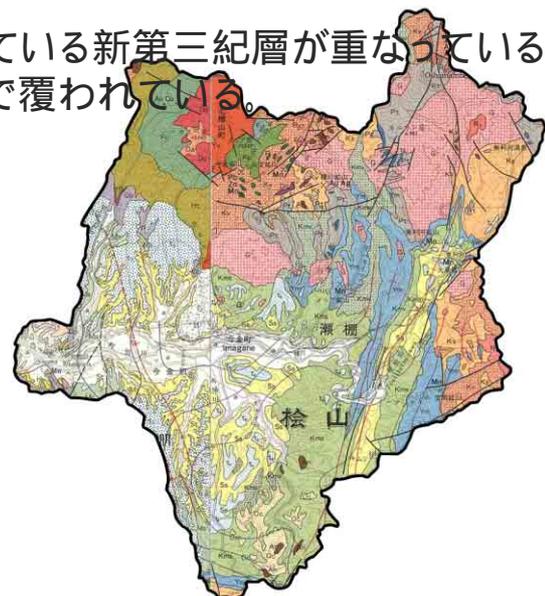
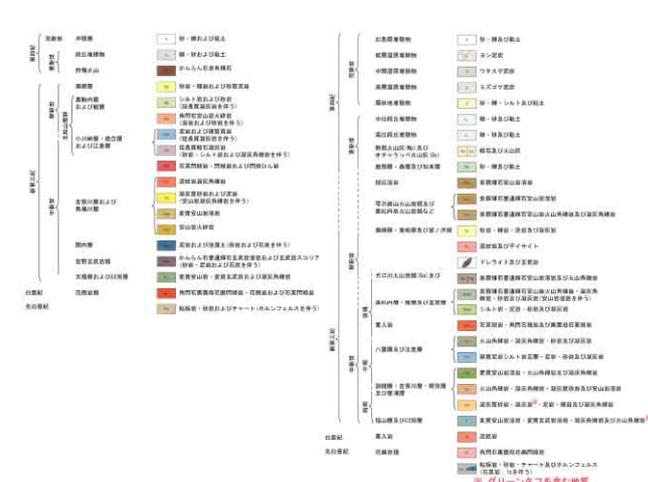


農耕地の広がる後志利別川

説明図

(概要)

・流域の地質は、緑色凝灰岩が含まれている新第三紀層が重なっている。
・流域を含むかなりの地域は火山性土で覆われている。

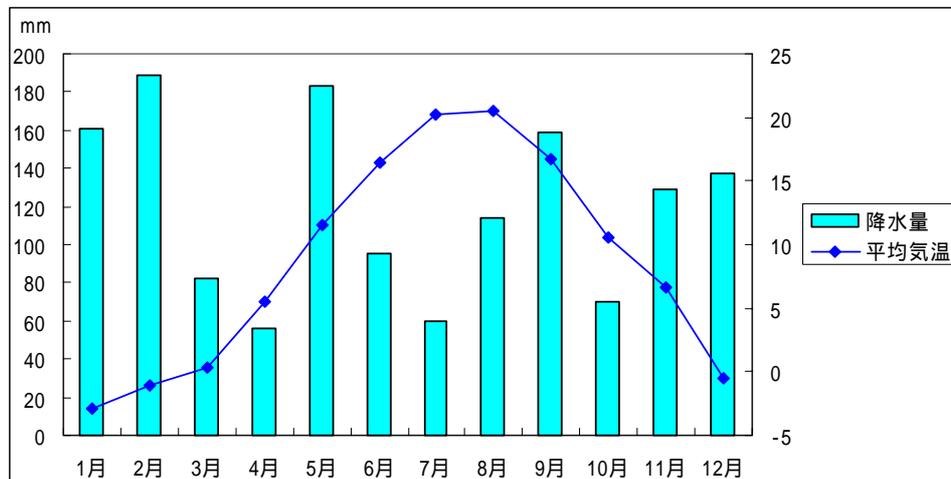


(出典：産業技術総合研究所地質調査総合センター「図幅図」)

説明図

(概要)

・流域の年間降水量は今金で約1,350mmである。



今金地点の降水量と平均気温(2004年(平成16年))

(出典：気象庁HP(気象統計情報))

説明図

1-5

(流域の自然環境)

- ・上流部は、河床勾配が約1/200～1/500である。
- ・サクラマス、カワヤツメの産卵床、山際部にはブナの自然林、川沿いにはヤナギ類の群落が分布している。
- ・中流部は、河床勾配が約1/500～1/1,400である。
- ・アユ、カワヤツメの産卵床、高水敷にヤナギ類の群落やヨシ群落が分布している。
- ・下流部は、河床勾配が約1/1,400～1/3,000である。
- ・低木のヤナギ群落やオオヨモギ群落等、ヒシクイ等の渡りの中継地となっている。
- ・サケの増殖事業が行われており、支川メップ川は、サクラマスの資源維持培養を図る重要な河川である。

2

(流域の自然環境)

- ・上流部は、河床勾配が約1/200～1/500である。
- ・サクラマス、カワヤツメの産卵床、山際部にはブナの自然林、川沿いにはヤナギ類の群落が分布している。



中里地先



後志利別川 - 上流部 -

説明図

2-1

(流域の自然環境)

- ・中流部は、河床勾配が約1/500～1/1,400である。
- ・アユ、カワヤツメの産卵床、高水敷にヤナギ類の群落やヨシ群落が分布している。



神丘地先



後志利別川 - 中流部 -

説明図

2-2

(流域の自然環境)

- ・下流部は、河床勾配が約1/1,400～1/3,000である。
- ・低木のヤナギ群落やオオヨモギ群落等、ヒシクイ等の渡りの中継地となっている。



河口付近



後志利別川 - 下流部 -

説明図

2-3

(流域の自然環境)

- ・サケの増殖事業が行われており、支川メップ川は、サクラマス資源維持培養を図る重要な河川である。



サケの稚魚の放流



真駒内川のサケのつかみ取り

説明図

2-4

(災害の歴史と治水事業の沿革)

- ・昭和4年8月洪水にかんがみ、河口の計画高水流量を1,890m³/s
- ・昭和9年より今金町市街部から河口までの低水路の開削や築堤等施工
- ・昭和37年8月洪水にかんがみ、昭和38年に今金町市街部から上流住吉までの区間を加え改修工事
- ・昭和44年に工事实施基本計画を策定
(今金地点 基本高水ピーク流量1,600m³/s、計画高水流量1,250m³/s、350m³/sを洪水調節施設により調節)
- ・昭和54年に美利河ダムの建設に着手、平成3年に完成
- ・平成5年7月に発生した北海道南西沖地震では堤防、護岸等、多大な被害を受けたが、迅速に災害復旧

(災害の歴史と治水事業の沿革)

昭和37年8月洪水



昭和50年8月洪水

(災害の歴史と治水事業の沿革)



兜野地先



兜野地先



豊岡地先



愛知地先



鈴金地先



花石地先 - 右岸

南西沖地震による被害状況（平成5年7月）

説明図

3-2

(河川水の利用)

- ・開拓農民による農業用水利用に始まり、現在約6,000haに及ぶ農地のかんがいに利用されている。
- ・水力発電、水道用水、消流雪用水等に利用されている。

(水質)

- ・BOD75%値が全川にわたって環境基準値を満たしている。

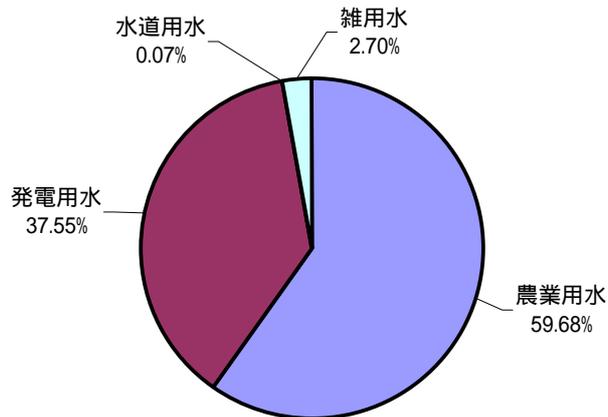
(河川の利用)

- ・上流域では、自然観察、カヌー、アユ釣りが行われている。
- ・中下流域では、高水敷を利用した河川公園等が整備され、スポーツや散策等多目的に利用されている。
- ・清流を守るため市民団体等による様々な活動が行われている。

4

(河川水の利用)

- ・開拓農民による農業用水利用に始まり、現在約6,000haに及ぶ農地のかんがいに利用されている。
- ・水力発電、水道用水、消流雪用水等に利用されている。



水利用割合図

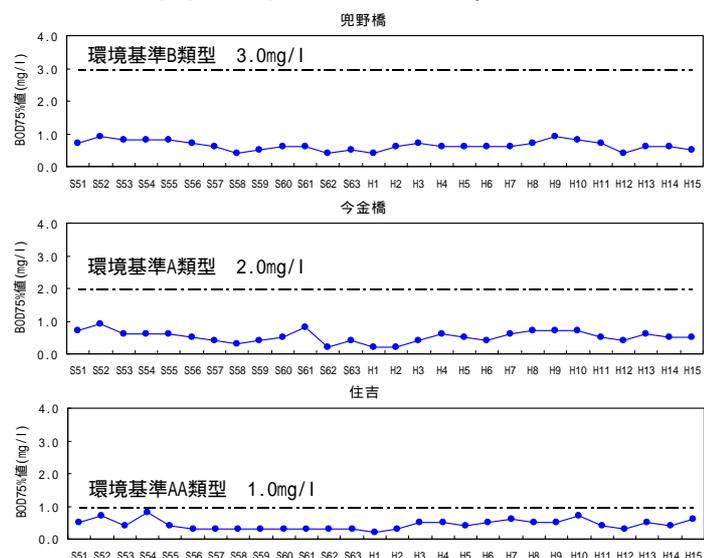
説明図

4-1

(水質)

- ・BOD75%値が全川にわたって環境基準値を満たしている。

後志利別川の水質(BOD)の変化



説明図

4-2

(河川の利用)

- ・上流域では、自然観察、カヌー、アユ釣りが行われている。
- ・中下流域では、高水敷を利用した河川公園等が整備され、スポーツや散策等多目的に利用されている。
- ・清流を守るため市民団体等による活動が行われている。



希望公園

今金河川緑地運動公園

植樹会

高水敷利用状況

清流保護の会の皆さん

説明図

4-3

(治水、利水、環境の総合的な方針)

- ・豊かな自然環境を育む清流の保全等を関係機関や地域住民と連携し治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開する。
- ・水源から河口まで一貫した計画のもとに、目標を明確にして実施する。
- ・健全な水循環系の構築を図るため、流域一体となって取り組む。
- ・河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう維持管理を適切に行う。

5

ア 災害の発生の防止又は軽減 (流域全体の河川整備の方針)

- ・美利河ダムにより洪水調節を行うとともに、堤防の整備及び河道の掘削を行い、計画規模の洪水を安全に流下させる。
- ・関係機関と連携・調整、必要に応じて内水被害の軽減対策を実施する。

(河川管理施設の管理、ソフト対策)

- ・河川管理施設の機能の確保及び施設管理の高度化、効率化を図る。
- ・河道内の樹木の適切な管理を行う。
- ・情報伝達体制の充実など、総合的な被害軽減対策を関係機関等と連携して推進する。
- ・本支川及び上下流間バランスを考慮し、水系一貫した河川整備を行う。

イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- ・今後とも関係機関と連携して広域的かつ合理的な利用の促進を図るとともに、必要な流量の確保に努める。
- ・情報伝達体制の整備と水融通の円滑化などを関係機関及び水利使用者等と連携して推進する。

ウ 河川環境の整備と保全

(河川環境の整備と保全の全体的な方針)

- ・良好な河川環境を治水と整合を図りつつ保全に努める。
- ・河川環境の整備と保全が適切に行われるよう、空間管理等の目標を定め、地域と連携しながら川づくりを推進する。

(動植物の生息地、生育地の保全)

- ・多様な生態系を育む良好な河川空間の保全に努める。
- ・サケ、サクラマス、アユ等の魚類の、生息環境の保全に努めるとともに、海域と河川の連続性を確保するよう努める。

(人と河川の豊かなふれあいの確保)

- ・だれもが安心して親しめる河川空間となるよう、関係機関や地域住民と一体となって取り組む。

(水質)

- ・現状の良好な水質を維持し清流を保全するため、下水道等の関連事業や関係機関との連携・調整を図るとともに、河川情報を地域住民と共有し連携を深め、流域一体となった取り組みを進める。

(モニタリング)

- ・環境に関する情報収集やモニタリングを適切に行い、河川整備や維持管理に反映させる。

(地域の魅力と活力を引き出す河川管理)

- ・河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図る。
- ・住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進する。

基本高水のピーク流量

- ・基本高水のピーク流量は、昭和37年8月洪水等の既往洪水について検討した結果、今金地点で、 $1,600\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- ・このうち、洪水調節施設によって $350\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、河道への配分を $1,250\text{m}^3/\text{s}$ とする。

- ・昭和37年洪水等の既往洪水について検討

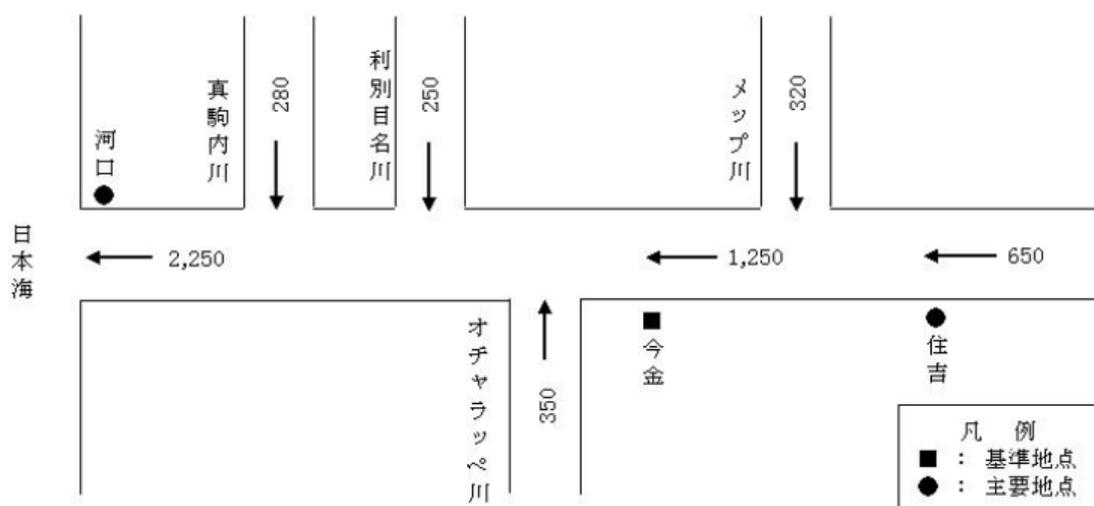
基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量 (m^3/s)	洪水調節施設に よる調節流量 (m^3/s)	河道への 配分流量 (m^3/s)
後志利別川	今 金	1,600	350	1,250

計画高水流量

- ・計画高水流量は、既に完成している美利河ダムにより洪水調節を行い、住吉地点で $650\text{m}^3/\text{s}$ 、メップ川等の支川を合わせ、今金基準点で $1,250\text{m}^3/\text{s}$ 、利別目名川及び真駒内川等の支川からの流入量を合わせ河口で $2,250\text{m}^3/\text{s}$ とする。

後志利別川計画高水流量図(単位: m^3/s)



主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口又は合流点からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)
後志利別川	住吉	26.0	32.60	130
	今金	16.0	16.59	270
	河口	0.3	3.24	450

注) T.P. : 東京湾中等潮位

・今金地点

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、概ね3 m³/sとする。